

申し入れ

“生理用品の無償配布を実施してください”

鎌ヶ谷市長 清水聖士様

2021年3月26日

「民主と自治の会」

藤代政夫 渡邊俊彦

戸部光枝 佐藤剛

*連絡：047-445-9144

日頃より鎌ヶ谷市民の福祉向上と、女性への生活支援にご尽力くださり心より敬意を表します。

コロナ禍で生理用品の入手に困難な方が更に増えていることが明らかになりました。

大学生らが立ち上げた団体「#みんなの生理」の行ったアンケート結果では、過去1年間の間に“金銭的理由で入手に苦労したことがある人”が20.1%、“交換頻度を減らした人”が37.0%、“生理用品でないものを使った人”が27.1%いたことがわかりました。

政府も3月23日、金銭的理由で生理用品を買えない『生理の貧困』が問題になっていることを受け、「地域女性活躍推進交付金」の使途として“生理用品の無料配布も事業に加えました（13億5000万円）。《共同通信》

すでに東京都の足立区、荒川区、北区、豊島区、多摩市、そして兵庫県明石市などの自治体ではそれぞれ独自に生理用品の無償配布を開始しています。

生理用品は女性の生活必需品です。

世界的にもスコットランドでは2020年11月、生理用品の無料提供を自治体や教育機関に義務づける法律を成立させました。ニュージーランドは2021年6月から学校で生理用品を無料で提供することを決定。フランスも2月すべての大学生に対して生理用品を無料で配布すると発表しました。

たとえば荒川区では窓口に設置する専用カードを差し出すだけで生理用品が受取れる。女性職員が対応を行うなど十分に配慮して防災備蓄物資の入れ替え対象となっている生理用品31548枚（717セット）を1袋（22枚入れ2つ）ずつ無償配布です。

足立区でも800パック（1パックは昼用28個・夜用15個）の無料配布を3月22日から始めています。

鎌ヶ谷市でも生理用品の無料配布を検討し実施していただくよう要望いたします。

*回答を4月15日までに文書でいただきたく存じます。

